



菊池 巳喜男 議員

一問一答方式

練を実施し、意識の向上を働きかけている。今後は、遠野テレビのデータ放送と連携したスマートフォン向けのアプリの導入を進めながら、ハザードマップのweb化も検討していきたい。

市の国土強靭化 地域計画策定は

遠野市の国土強靭化地域計画の策定の見込みはどのようになっているか。

自然災害等の被害予測として、安全で安心なまちづくりをスローガンに掲げ、遠野市では「防災マップ」を各世帯に配布している。紙ベースだけでなくweb化し、防災情報を強化することを考えては。

答(市長).....

遠野市総合計画、次期総合計画、実施計画を見据えながら、早期の策定を検討したい。

答(市長).....

市内全域で防災訓

災害時における情報伝達基幹システムである、防災行政無線のデジタル化整備の進捗状況は。

既存のアナログ防災行政無線は、設備の老朽化と無線設備の技術基準改正により、デジタル化整備が必要となっている。今年度は、各種の調査と設計を完了し工事の工程を作成する。工事は、来年度から3年計画で、親局整備や中継局、野外拡声子局の整備を順次行う計画である。

答(市長).....

国土強靭化に係る、市内河川や道路等の点検や修繕保全対策は進んでいるのか。

答(市長).....

パトロールで被害を発見した際は、速やかに修繕を行っている。維持修繕工事での対応が必要な場合は、予算の範囲内で工事を速やかに進めている。

橋梁は5年に一度の定期点検が法律で義務付けられており、今年度で全て449橋の点検が完了する。

積極的な六次 産業化に取り 組むべきでは ないか

農業生産物に付加価値を付け販売するべく六次産業化では、商品化開発が大切であり、「六次産業の拠点」づくりを各町単位に設け、積極的な支援対策が必要ではないか。

答(市長).....

遠野市としては、商品開発過程においては、各地区センターの調理実習室などの施設を有効活用していただくことを考えている。

林業振興対策を問う

遠野市内の森林の現状をどのよう捉えているか。

答(市長).....

近年の社会情勢の変化など様々な要因により、木材価格の低迷や伐期を迎えた山林の手入れが行き届かず、荒廃している所が多くなっている。

産振興ビジョンの林業振興策における目標と達成状況は。

答(市長).....

里山美林の推進事業(森林整備や造林面積、松くい虫被害木の駆除)は、年次計画通りに概ね達成された。また、木工団地の売上目標額34億円も100%達成と森林整備の推進に成果があった。

一方で、原木しいたけ生産振興は、福島第一原発事故による放射性物質の影響により出

荷制限があったため未達成。

林業の六次産業化の可能性についてどのように捉えているか。また、林家や工務店等と初めとした関係団体間の連携が必要では。

答(市長).....

木工団地内の事業者の中堅社員が中心となり「森林の再生を考える会」を立ち上げ、自発的に団地内の環境整備を図りながら、事業者間の連携と活性化に取り組み機運が高まっている。

この事業の目的は、遠野市の豊富な森林資源を燃料として有効活用し、地域経済の循環を促すことを確認するというもので、総事業費約6億円、実験期間3か年(H26~H28)であったが、実験の成否は。

答(市長).....

チップ生産と熱源供給として、たかむろ水光園に整備したチップボイラーは順調稼働している。一方で、枝葉やバーク等(木の皮)を燃料にする大型ボイラーは、実験目標と成果検証は確認できたものの、目標値のエネルギー確保ができなかったことから、コスト削減と波及効果について引き続き検証する。

実証で購入した、高額な機械やチップヤードは現在どのように活用されているか。

答(市長).....

実証後も木質バイオマスの活用推進のためチップパーやボイラーなど新たな仕組みの中で継続活用中である。



佐々木 大三郎 議員

一問一答方式

その他の質問
●第三セクター改革の推進について

木質バイオマスエネルギー 推進事業の実証実験結果は



トラクターを動力源とする移動式チップパーは、林地の間伐材や支障木を現地でチップ化する。